夢・努力・感動 ～生徒とともに～

平成３１年　３月　　日（　）
人権・同和教育部だより

１年生生徒・保護者版

みなさんこんにちは。人権・同和教育部です。学校では卒業式がおわり、先日は高校入試も行われました。みなさんは、もうすぐ高校生としての一年が終わり、２年生になろうとしています。４月に出会った人たちと、語り合って友となり、高めあって仲間となっていることでしょう。かけがえのない仲間たちとともに、新しい春を迎えてください。

さて、今回は３学期に行われた人権・同和教育ＨＲ活動について振り返ってみたいと思います。

人権・同和教育ＨＲ活動「差別と人権～ちがいのちがい～」

２月１３日（水）に３学期の人権・同和教育ＨＲ活動が行われました。１年生のテーマは「差別と人権」でした。このテーマに沿って「ちがいのちがい」というワークシートに取り組み、身近な生活の中に潜む「差別」に気づこうというねらいのもと、授業が展開されました。活動の概略は以下の通りです。

１，「ちがいのちがい」の例題に挑戦し、今日の活動について理解する。
２，各グループにワークシートを配布し、①～⑦について「あっていい違い」「あってはならない違い」かを考え討議する。「あっていい○」「いけない×」「どちらともいえない△」
　①日本の普通高校ではアルバイトは禁止だが、アメリカでは積極的に勧められている。
　②あるアパートで、日本人の入居は認めるが外国人は認めないと言われた。
　③就職説明会では、ｽｰﾂを着ている人は会場には入れたが、ｼﾞｰﾊﾟﾝでは入れなかった。
　④ある会社では、管理職はすべて男性であり、女性は管理職になれない。
　⑤ある中華料理店で、家族は入店できたが車いすに乗っている人だけ入店が拒否された。
　⑥男子用トイレと女子用トイレが別々に設置されている。
　⑦Ｃ社の入社応募用紙には親の職業を記入する欄があるが、Ｄ社にはない。
３，各グループの意見を発表する。
４，発表された意見を検討し、クラスで共有する。授業者の話を聞く。
５，本時の感想を書く。

生徒の感想より

☆世の中には「あっていい違い」と「あってはいけない違い」であふれているなと思った。自分が「あってもいい」と思ったものが「あってはいけない違い」であることがあって、そこには人権問題が関わっていて興味深いなと思った。互いの考えや価値観を尊重し合うことにこそ人間的な成長があると思った。これから生活していく中で、いろいろな問題に対するさまざまな疑問が出てくると思うが、その一つ一つに向き合い自分なりにしっかり考えていこうと思う。

☆今回他の人の意見を聞いて、普段私たちが当たり前のように許していることも実は偏見だったり、差別につながっていたりすることを改めて思いました。例えば、わたしは男子トイレと女子トイレが別々に設置されているのは普通だと思っていたけど、クラスでの話し合いで『性同一性障害』という言葉が出ました。わたしの頭の中ではそんな言葉が全く出てこなくて、常に自分のことしか見えていない自分が少し恥ずかしくなりました。これから大人になると様々な人に出会うと思うけど、自分のことだけでなく周りの人にも目を向けられる人になりたいです。

☆私が一番心に残ったのは、車いすに乗った人が中華料理店に入れなかったという例です。中華料理店ではありませんでしたが、私もそのような光景を目にしたことがあります。その店は混んでいて、他のお客様のことで手がいっぱいなのでという理由で入店を拒否されていました。あの時の、車いすに乗った人とその家族の悲しそうな顔は今でも忘れることができません。私たち家族もあまり良い気分で食事ができませんでした。今すぐには無理かもしれませんが、障害を持っておられる方でも気持ちよく生活できる社会になれば良いなと思います。今回の授業を生かして、これからは身の回りのことが差別につながっていないかを考えていきたいです。

☆今自分が一番気にしているのは外国人差別です。島根県には外国人の移住者が増えてきて、外国人の子どもたちの教育や労働についての問題があります。どんな人でも快適に安心して暮らせる世の中になっていけば良いと思います。今回の授業で改めて差別は必要ないとわかったし、あってはいけないと感じました。

☆男女の差別、障害者への差別はもちろんあってはならないと思うし、会社などで親の職業や血液型などで合否を決めたりすることもいけないと思います。同和問題は中学の頃から学んでいますが、高校生になった今でも差別などの問題について話し合っているということは何年経ってもなくならないんだと思いました。差別をしている人を止める、まずはそんな風に強い意志を持てる人になりたいと思います。

☆人によって感じ方とか考え方とかが違うとは思うけど、その人ではどうしても変えることができないことに、違いをつけて区別するのは差別にあたるなと改めて思いました。１人１人の個性を尊重しつつ、誰かが人種や生まれで差別されることがないようにみんなが意識して頭に置いておかなければならないと思います。

☆最後のやつ（⑦）が一番難しかったです。中学生の時に１回やったことがあったし、社会でも部落差別のことをやったりして親のこととか関係ないって知っていました。だけど、グループの話し合いで、良いんじゃないかという意見もあり話を聞くとなんか納得いくような感じがしたので、グループの意見としては△になりました。解説を聞いてこれは差別でダメだということがよくわかりました。将来は差別に対して自分で判断しないといけないので、正しいことがちゃんとわかるようにしたいです。

☆何回もやったやつだからもう理解していた部分が多かったけど、グループワークをする度にさらに理解を深めることができた。今度あるときはまた違う発見があると思う。自分の意見だけでなく、人の意見もしっかり聞いていきたい。

人権課題について考える教材として「ちがいのちがい」は良く用いられます。生徒の皆さんの感想にも「中学校の時にやったことがある」といった内容のものも見られました。今回、この教材を用いてＨＲ活動を行ったねらいは、

①日常生活に現存している人権課題に気づく、
②自分の考えを適切に伝え、他人の意見を聞くなどのコミュニケーション能力を高める、
③人権問題解決に向けて主体的に行動できる実践力を培う、というものでした。

そのため、今回みなさんに考えてもらった①～⑦の事例は、明らかな人権問題と思われるものから、様々な視点で考えると○×つけがたい、といったものもあったと思います。そのことをグループで話し合うことによって、より理解が深まったり、新たな発見があったりしたことがみなさんの感想から伝わってきました。今回の学習を通して、身の回りにある「当たり前」と思われるものに対しても「なぜ？」と問い直すきっかけになれば幸いです。人権問題について考えるという学びは、たとえ差別がこの世の中からなくなっても続けなければならないことなのでしょう。人は学び続けることによって、自分の人権感覚を磨き、差別をしない生き方を実践していくことになるのだと思います。（文責：藤原智子）